

資源再生工学研究室

選鉱学，鉱物処理工学，そして資源再生工学研究室の卒業生の皆さま，いかがお過ごしでしょうか？

2026年4月末現在、伊藤真由美教授、朴一煥（Park）准教授のもと、博士課程5名（フィリピン2名、社会人博士3名）、修士2年5名、修士1年7名（うちボツワナ1名、韓国1名）、学部4年5名、研究生1名（ジンバブエ）が在籍し、選鉱・製錬から資源リサイクリング、環境保全に至る幅広い分野の研究に取り組んでいます。また、2025年10月には、高橋達（2010年修士修了、現：エネルギー・金属鉱物資源機構）および朝倉賢（2013年修士修了、現：北海道立総合研究機構）が社会人博士として資源再生工学研究室に復帰しました。

2025年の資源・素材学会秋季大会は北海道大学にて開催され、伊藤・Parkの共催による企画セッション「リチウムイオン電池のための資源供給とリサイクル」を実施しました。柳庚権先生（韓国海洋大学）および渡邊亮栄氏（DOWA エコシステム株式会社）をお招きし、韓国と日本におけるリチウムイオン電池リサイクルの最新動向についてご講演いただきました。当日は100名を超える聴衆が参加し、活発なディスカッションが行われるなど、盛況のうちに終了しました。また、平島先生をはじめ多くの卒業生が集い、札幌ビール園にて懇親の機会を持ち、親睦を深めました。

伊藤・Park両教員は、GEE（モントリオール）、METCON（パラワン）、RSCE（マニラ）、Extraction（フェニックス）、GRES（チェンマイ）などの国際学会に加え、ジンバブエでのシンポジウムや JICA 絆プロジェクト留学生の現地調査（ジンバブエ、ボツワナ）にも参加し、日本人学生も同行するなど、引き続き国際的に活発な活動を行っています。学生たちも国際学会での発表において複数の受賞を果たすなど、精力的に研究活動に取り組んでいます。研究成果および受賞の詳細については、研究室ホームページ（<https://www.eng.hokudai.ac.jp/labo/mprrr/home.htm>）をご覧ください。

